

県北山間地域におけるモモ「あかつき」の硬核期判断の目安

[要約] 県北山間地域のモモ「あかつき」において、摘果判断に重要な硬核期は、満開後50日頃(6月上旬頃)から満開後70日頃(6月末)である。硬核期始め頃の果実は、1果重17~18g、縦の長さ約36mmである。

農業総合センター山間地帯特産指導所	平成23年度	成果区分	技術情報
-------------------	--------	------	------

1. 背景・ねらい

モモは、着果を適正数に調整しないと、果実の小玉化や核割れ果等が生じるため、摘蕾、摘花、摘果等の着果管理が必要である。ただし中晩生種では、硬核期における過度の摘果管理が収穫前の落果や障害果の発生を助長するため、硬核期には摘果等の管理を控えることが重要である。モモ生産者は、これらの摘果管理の重要性を承知しているが、硬核期の判断は難しく、県北山間地域の生産者から、モモ主要品種「あかつき」の硬核期を明確にして欲しいと要望されている。そこで、モモ「あかつき」の硬核期判断の目安を明らかにする。

2. 成果の内容・特徴



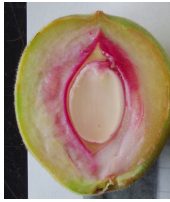


- 1) 県北山間地域のモモ「あかつき」では、満開後50日前から果実内部の核のリグニン化が徐々に進み、硬核期が始まる(表1)。
- 2) モモ「あかつき」の硬核期始め(硬核指数1)は、6月上旬頃(満開後50日頃)となり、硬核期終り(硬核指数4)は、6月末頃(満開後70日頃)である(表1、図1)。
- 3) モモ「あかつき」の果実は、硬核期始め頃に1果重17~18gとなり、硬核期終わりに1果重約56gとなる(図2)。このことから、硬核期は果実の重さから判断できる。
- 4) 硬核期は、果実の大きさ(縦径)からも判断できる。硬核期始めは、縦の長さが約36mmとなる(写真1)。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 本成果は、久慈郡大子町の山間地帯特産指導所内及び大子町の農家2ほ場で調査した結果である。大子町におけるモモ「あかつき」満開日は、4月13日(過去5ヵ年の平均値)頃であるが、気象の影響により満開日や硬核期は変動するので注意する。
- 2) 硬核期は、モモの果実が肥大する過程で、種子を囲む核が硬くなる期間であるが、本成果でのモモの硬核期判定は、福島県農林水産部果樹指導要項「核のリグニン化(硬核指数)の調査方法」に基づいて行っている。
- 3) モモ成木園(25~38本/10a)で目標果実収量を2t/10aとした場合、最終着果数の目安は260~175果/1樹である。
- 4) リンゴとモモを栽培している農家では、モモの仕上げ摘果時期がリンゴの予備摘果(一輪摘果)と重なるため、労力配分や雇用労働の確保に留意する。

4. 具体的データ

表1 モモ「あかつき」の満開後日数別果実内部のリグニン化(大子町、平成23年)

満開後日数	40日	50日	57日	65日	71日
調査日	5月27日	6月6日	6月13日	6月21日	6月27日
モモ「あかつき」の果実内部のリグニン化 ※1					
〈参考〉 ※2	硬核指数0 全く染まらない	硬核指数1 果頂部から赤道部にかけて核周囲が僅かに染色	硬核指数2 果頂部から下部まで核周囲が淡いピンク色に染まる	硬核指数3 核周囲がピンク色に染色	硬核指数4 核周囲が赤く染色

※1 モモ果実を縫合線に沿って縦断し、断面にウイスナー試薬を塗布して核(内果皮)を染色する。
 ※2 硬核指数の基準: 福島県農林水産部果樹指導要項「核のリグニン化(硬核指数)の調査方法」に基づく。
 硬核指数1のとき硬核期始め、硬核指数4のとき硬核期終りと判定する。

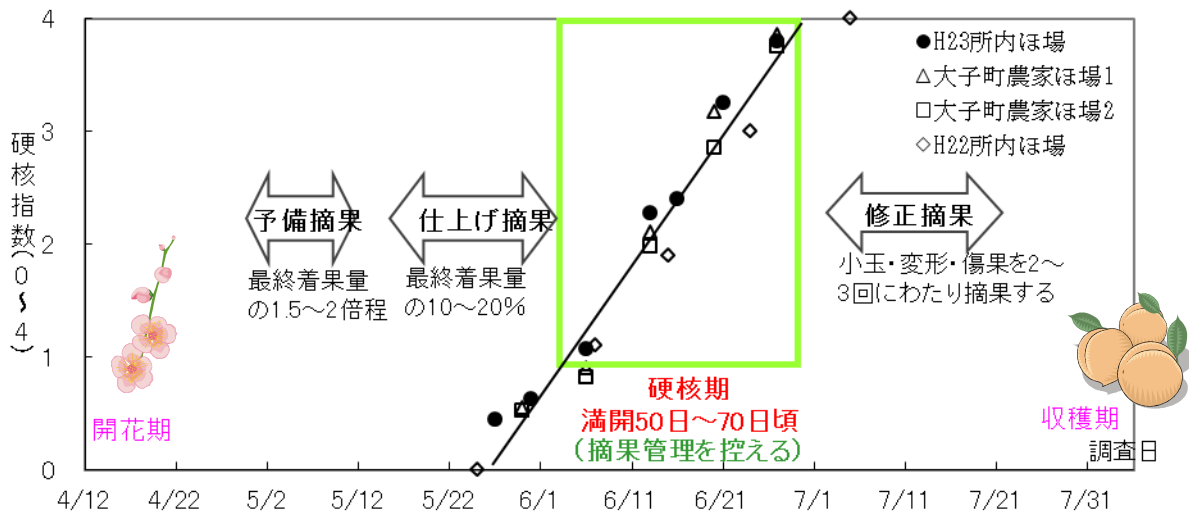


図1 モモ「あかつき」の硬核期の推移と摘果管理の時期(平成22・23年、大子町)

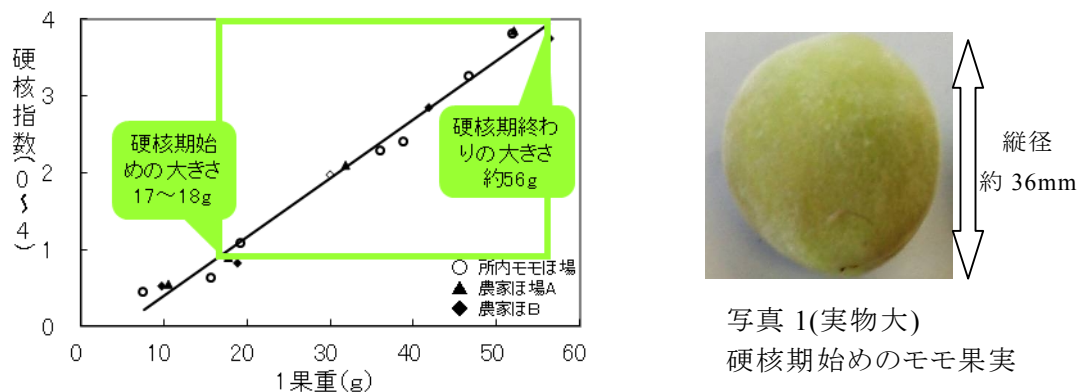


図2 モモ「あかつき」の硬核期の果実の大きさ(平成23年、大子町)

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

モモの硬核期判定による摘果法の開発と台木品種の選定・平成22~26年度・山間地帯特産指導所